

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

パウダーを満喫の焼岳

3月の信高山岳会の例会山行は、妙高杉の原スキー場からはいり、三田原山経由で高谷池ヒュッテに一泊、その後火打山から焼山の北面を笹倉温泉へ下ると言う山スキーの計画だった。ところが、今年の3月は終末になると天気が悪くなるという周期にぶつかり、この週(24日〔土〕から25日〔日])も日本海側は大荒れ模様の予報。担当の大西英樹氏から前々日に連絡が入り、「高谷池ヒュッテで降り込められたら厄介だ。ここはできるだけ南に逃げ、焼岳で日帰りスキーにしよう」ということになった。

信高山岳会の例会とは言うものの、今回参加者は大西英樹と小生の2人。そこに特別ゲストとして石川県高体連の北川甚一先生が参加。わずか3名での山行と相成った。前日は予報通り松本も大荒れだったが、25日の朝起きると晴れ間が覗き、自宅を出る時には期待が膨らんだ。ところが、波田で大西英樹さんと合流したところから雪が舞いだし、沢渡で北川さんの車を見つけたときには5cmほど新雪が積もっていた。タクシーに乗ると「こりゃえらい天気じゃねーかい。気をつけていきましょや。事故は困るじ。」と言われた。空はどんよりと曇り、風も強い。しかし、午後になれば良くなるはずと信じ、釜トンネルを進む。

8:10 釜トンネルを抜けると心なしか空が明るく感じられた。

新雪が積もっていたので、早速スキーを履く。下堀沢右岸の尾根に取り付くべく梓川左岸を下るも水流が多く、対岸へ渡れない。結局からまつ橋の近くまで左岸を遡上させられた。急がば回れとはこのことだ。9:00 ようやく対岸へ渡ることができた。

9:15 尾根に取り付く。最初から急坂が続き、深い新雪にも悩まされながらも、英樹さんが快適なペースで進む。それぞれトップを一回ずつ分担し、9:50、1700m地点で1本とる。雪は相変わらず降っている。やや傾斜が緩くなった尾根を登り、10:40 深くえぐれた下堀沢を覗き見る 1961m 地点に到達した。11:00、2040m付近の台地に到着した頃から、雪はますます激しくなってきた。ほぼ夏道に並行しながら、2100 付近まで登り、そこから南峰をめがけて進んだ。頂上間近になり次第に傾斜はきつくなる。上部はガスも出てきて視界も利かなくなり、風も出てきた。のっけから頂上は厳しそうだったのでアイゼンは車に置いてきた。仮に持ってきたとしてもこの天気では登らなかつただろう。

12:00、2270m 地点に到達したところで今日の最高到達点はここまでとし、下ることにした。こうなれば長居は無用、三十六計逃げるにしかずだ。シールを外しヘルメットとゴーグルを装着すればスタンバイオーケー。雪崩れても被害を最小限にすべく互いに監視しながら、より危険の少ない尾根を距離をおいて滑降を開始する。降ったばかりの新雪を巻き上げ、ブレーキをかける必要のない最高のシチュエーション。3月の下旬にこのパウダーを楽しめるとは怪我の功名である。ものの30分で1961m地点まで滑り降りた。ここからは樹林帯を縫うように思い思いのシュプールを刻んでいく。

最後まで天候は回復しなかったが、それが逆に素晴らしい雪を提供してくれた。まさに山スキーの醍醐味、パウダースノーを満喫して13:00 には梓川の底に滑り降りた。

松本県ヶ丘高校山岳部雪山歩き Part3(その1)

～雪の金松寺山・天狗岩・大明神山をぐるっと一回り～ 松田大記

3月18日(日)生徒6名(2年男子4, 1年男子2)引率2名、計8名で実施した。雨降りの翌日ということもあり、雪が柔らかく難儀をした。実働約11時間という雪山としてはとてもハードな山行であった。1月の霧訪山、2月の鉢伏山に続く雪山第三弾であり、有意義な山行でした。

「3月の例会山行は？」という問い掛けに山岳部の諸君が持ってきた答えは、旧梓川村の名刹金松寺に集合し、金松寺山を経て天狗岩に登り、さらに大明神山経由で八景山集落に降り、車道を金松寺まで戻るという周回縦走コースであった。日帰りではキツイのと、今年になってテント泊をしていないからと云うので、1泊2日の予定で、宿泊場所は天狗岩を越えて降った鞍部辺りとのことであった。メチャメチャきつそうだが、ネットで調べて見ると無雪期の日帰り例が見つかった。「小生はOKだが、もう一人の引率がいないので」と、ダメ出しをする。擦った揉んだの揚げ句、登山口で前泊し、筒井Tが夜明けまでに現地に来ることで実施の運びとなった。もっとも最初の計画通りに実施したとしても、あの天候(朝から結構な雨降りでした)では、とても入山出来なかったものと思われる。以下に概要を記す。

17日(土)朝からの雨降りの中、午前中に登山口の様子及び、八景山集落下山後の金松寺までのルートへの偵察に軽トラで出かけた。現在旧梓川村地積の西山山麓一帯ではサルやカモシカ等の有害獣対策として金網の柵の設置工事が行われている。金松寺からの金松寺林道でもその工事中で、雨降りの中地元の人たちが作業をしていた。近いうちに小生の居住する旧三郷村小倉地籍でも、当然同様な工事が実施されることになりそうなので、工事をしている人に様子を伺った。下見の結果、八景山からのルートは山ぎわの道が途中の穴沢谷で途切れており、下山後直に下の県道を歩いて、途中から上の段に上がった方が早そうであった。(下山してからの舗装路歩き約1時間かー。大変だこりゃァー!?)

夕方4時、雨の中を金松寺に現地集合。幕営場所と考えた登山口下の上水道施設横に移動。早速雨中での幕営、コツをそれなりに伝授する。テント内で炊事をしているうちに雨も上がり、青空が広がる。ジャンボエスパースは広くて快適、夕食メニューの焼き肉焼きソバも具沢山で質量とも満足。テント内での談笑に花が咲き、就寝時間が遅くなった。外は松本平の夜景と星空が綺麗であった。

18日(日)は4時半に起こされた。朝食メニューはマカポテ(マカロニ入りマッシュポテ)初にお目にかかる代物だが、小生の味覚に合わないのでパス。量も半端ではなく、流石の男子生徒諸君も持て余し気味、結局残りをコッヘルのまま行動食として持ち上げ



ることになった。筒井Tは5時過ぎに現地に到着したが、撤収に手間取りしばし待たせる羽目に。完全に明るくなった5時50分に出発し、金松寺林道を詰める。最初は殆ど雪が消えていたものの、途中から雪上歩行となる。最近の温暖さと昨日の雨で、雪は腐りきっており、先が思いやられる。林道終点で一本、筒井Tが少々遅れ気味以外はみんな快調である。